“この活動は、一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストの
2020 年度助成を受けて います。”

# 気候危機に立ち向かえ！
# ～東京都内の脱炭素化調査2020～

主催：脱炭素投資研究会、パワーシフトキャンペーン
共催：グリーンピースジャパン、FoE Japan
2021/03/23 19:00-20:30

# 本日のプログラム

1. 開会の挨拶　FoE Japan 吉田明子
2. 「都内大学の脱炭素化に関する報告」　脱炭素投資研究会 塚本悠平
3. 「大学の脱炭素化の意義と武蔵野大の取り組み」　武蔵野大 環境工学准教授 明石 修さん
4. 「ゼロエネルギーキャンパスへの取り組み」 法政大 大学院特任研究員 島田 昭仁さん
5. 調査をしてみて：トーク　佐藤悠香さん、佐藤風太さん
6. 「メッセージ＆大学リーグの呼びかけ」千葉商科大学長 原科幸彦さん（ビデオメッセージ）
7. 質疑応答
8. 閉会の挨拶

**＊参加者の方々へのお願い**
**ご質問の際はチャットボックスに、氏名・所属・誰への質問か、を明記してください。**

# 東京都内の脱炭素化に関する公開質問調査の結果報告

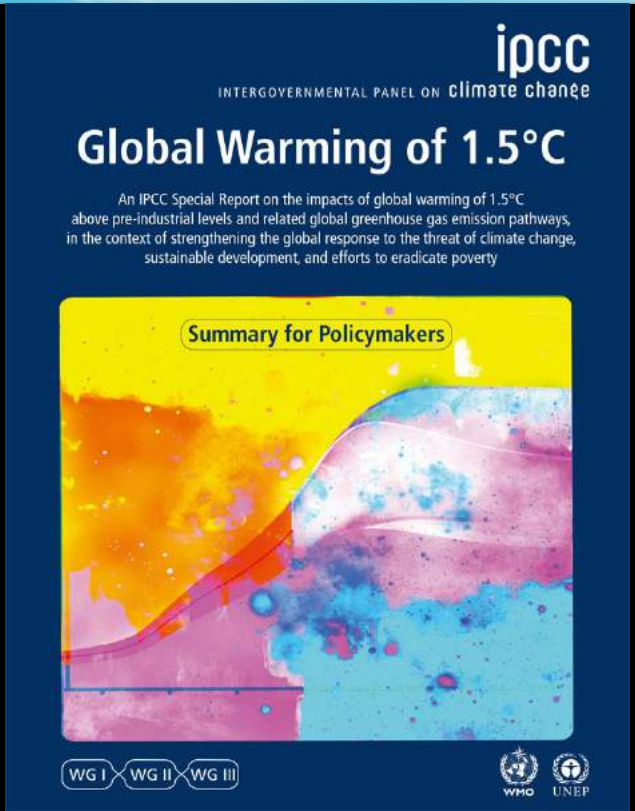
脱炭素投資研究会　塚本悠平
2021/03/23

# アジェンダ

1. 調査実施の背景
2. 調査結果
3. 考察
4. 提言

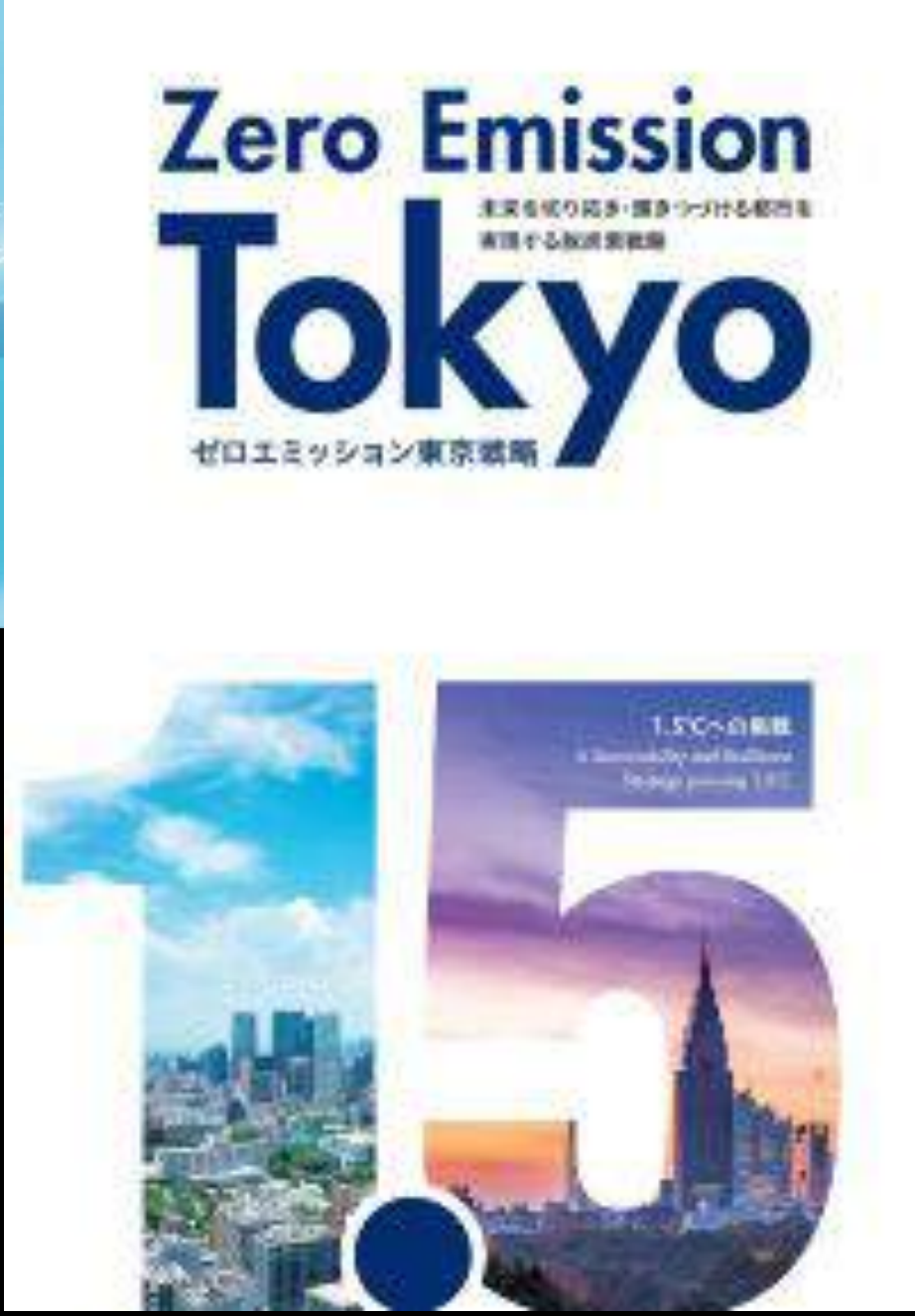
# 大学の省エネ・温暖化対策

# 先進事例集




出所：気候ネットワーク, 2015

出所：IPCC, 2018




出所：東京都環境局, 2019

# 実施主体

主催：
脱炭素投資研究会
パワーシフトキャンペーン

共催：
グリーンピースジャパン
FoE Japan

## 報告書概要

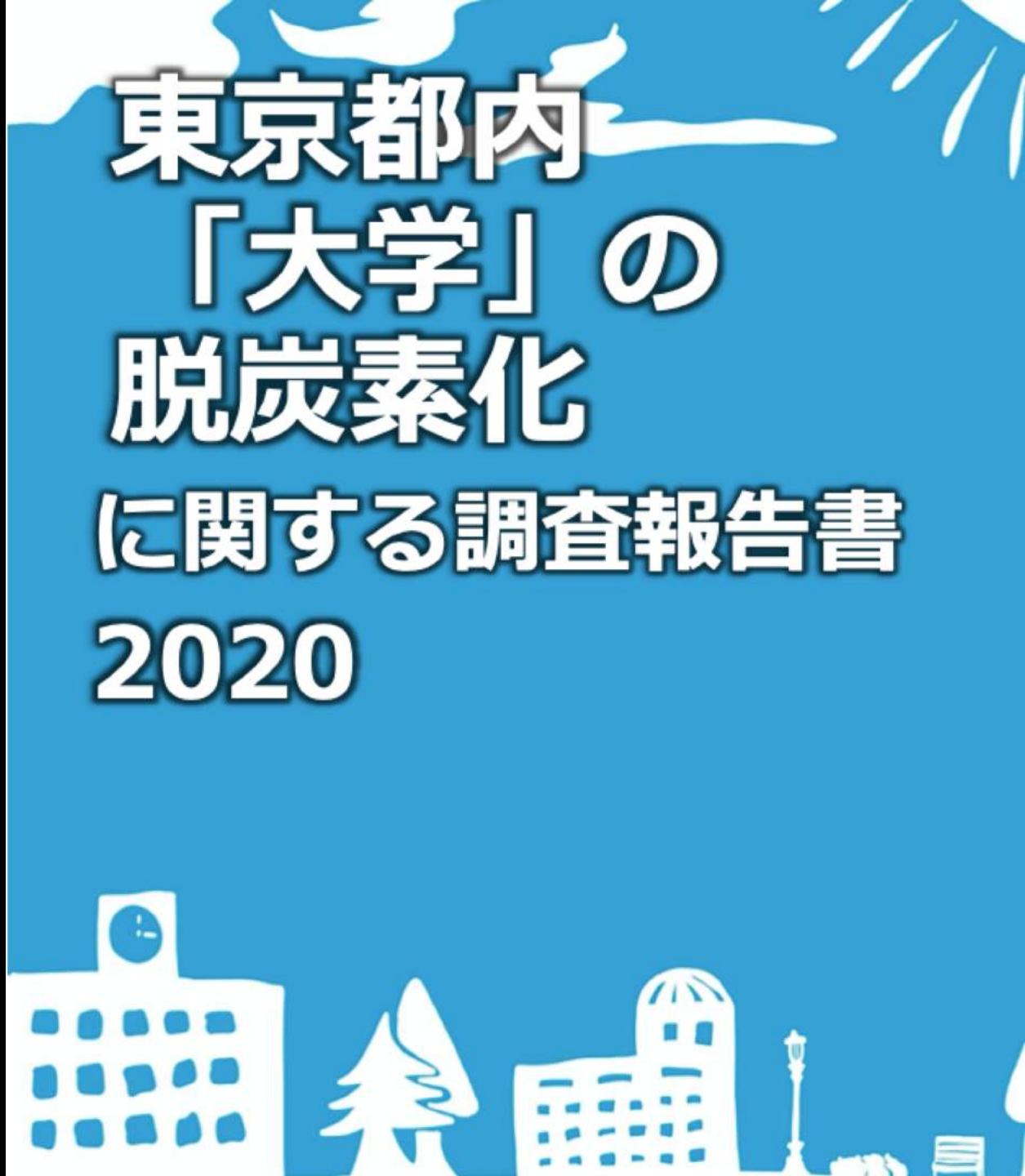
1. 背景
2. 調査内容
3. 調査結果の概要、考察と提言
4. 調査結果
5. 参考・関連情報

## 調査目的

大学での脱炭素化の状況等について質問調査を行いその状況を可視化、また脱炭素化を促進する。

## 調査対象と回答率

都内の大学139校のうち回答49校（回答率35%）



# 調査結果

対象大学は139校で、回答大学数は49校。
全体の回答率は**35%**。
回答率を国公立と私立とで比較すると、国公立が**79%**で私立が**30%**と大きく差が開いた。

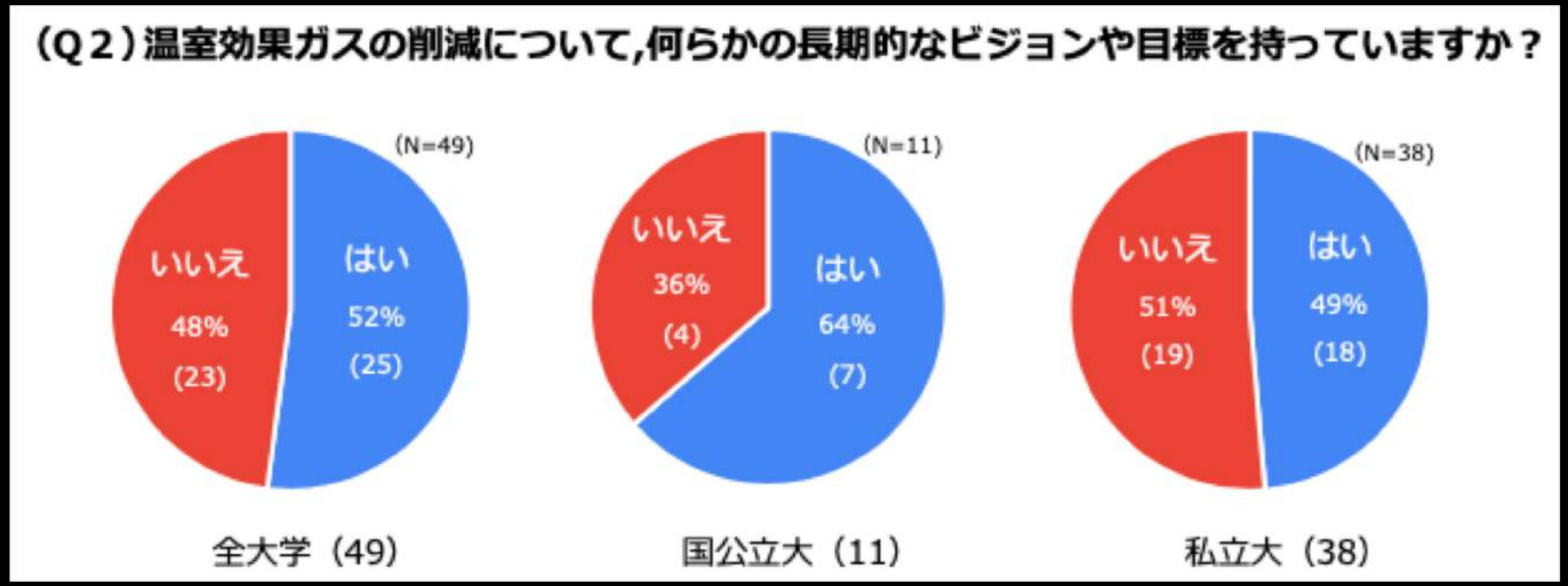
| | 総数 | 国公立 | 私立 |
|---|---|---|---|
| 回答大学数 | 49 | 11 | 38 |
| 対象 | 139 | 14 | 125 |
| **回答率** | **35%** | **79%** | **30%** |

回答いただいた大学：東京都内の４９大学（対象 139 大学中）

（T***は調査番号）

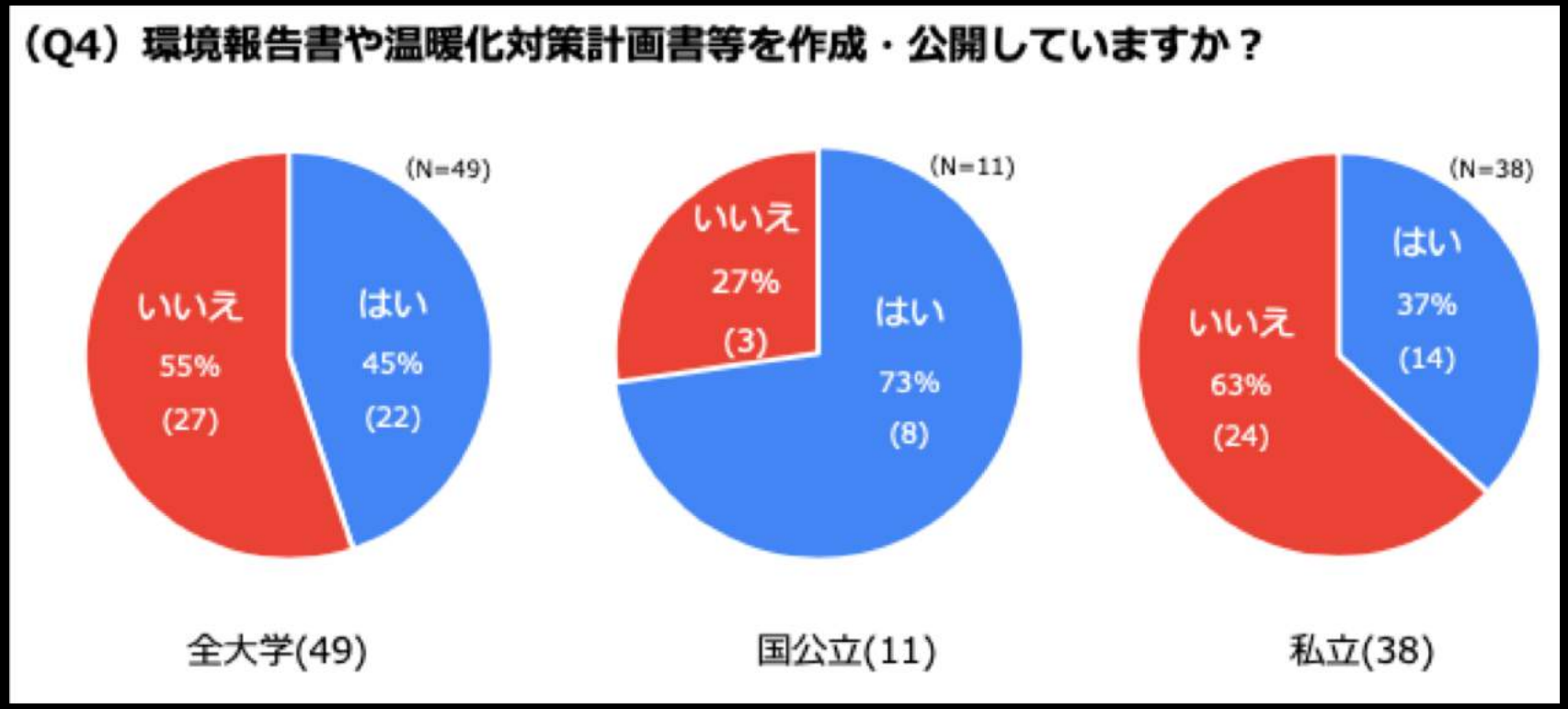
| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| T001 | 東京大学 | T021 | 駒沢女子大学 | T041 | 東洋学園大学 |
| T002 | 東京医科歯科大学 | T022 | 実践女子大学 | T042 | 二松学舎大学 |
| T003 | 東京外国語大学 | T023 | 上智大学 | T043 | 日本女子大学 |
| T004 | 東京農工大学 | T024 | 昭和女子大学 | T044 | 日本体育大学 |
| T005 | 東京工業大学 | T025 | 杉野服飾大学 | T045 | 法政大学 |
| T006 | 東京海洋大学 | T026 | 創価大学 | T046 | 星薬科大学 |
| T007 | お茶の水女子大学 | T027 | 聖心女子大学 | T047 | 武蔵野大学 |
| T008 | 電気通信大学 | T028 | 多摩大学 | T048 | 目白大学 |
| T009 | 政策研究大学院大学 | T029 | 玉川大学 | T049 | 早稲田大学 |
| T010 | 東京都立大学 | T030 | 中央大学 | | |
| T011 | 東京都立<br>産業技術大学院大学 | T031 | 東京家政学院大学 | | |
| T012 | 青山学院大学 | T032 | 東京純心大学 | | |
| T013 | 大原大学院大学 | T033 | 東京神学大学 | | |
| T014 | 学習院大学 | T034 | 東京聖栄大学 | | |
| T015 | 学習院女子大学 | T035 | 東京成徳大学 | | |
| T016 | 共立女子学園 | T036 | 東京造形大学 | | |
| T017 | 慶應義塾大学 | T037 | 東京農業大学 | | |
| T018 | 工学院大学 | T038 | 東京未来大学 | | |
| T019 | 国際仏教学<br>大学院大学 | T039 | 東京薬科大学 | | |
| T020 | 国士館大学 | T040 | 東洋大学 | | |

# 考察：大学の脱炭素化に向けたガバナンスが脆弱



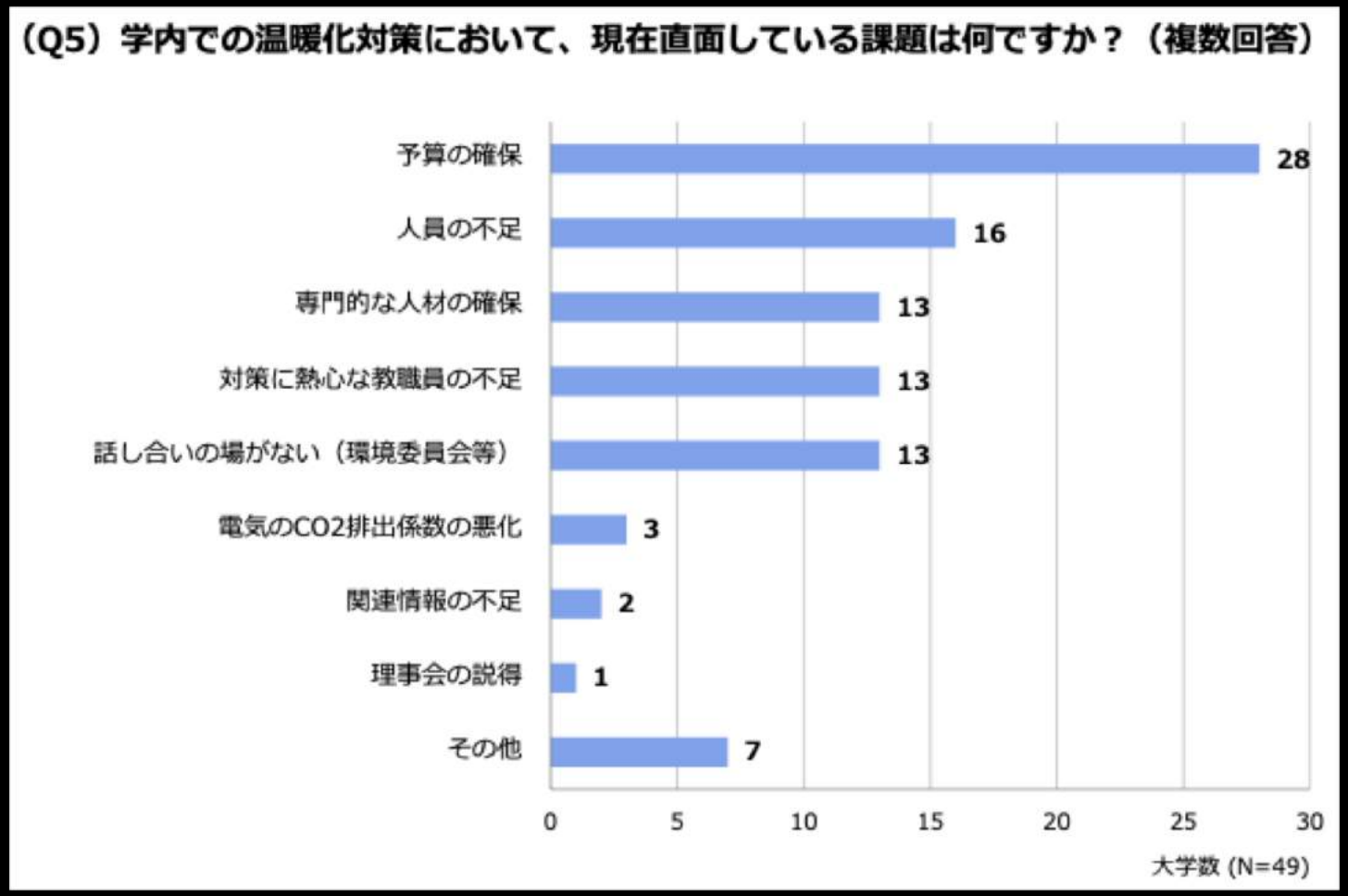

回答大学の**半数**が温暖化対策に関する委員会等の議論の場を設定していないことから、大学経営における温暖化対策のプライオリティの低さがうかがえる。

# 考察：大学の脱炭素化に向けたガバナンスが脆弱



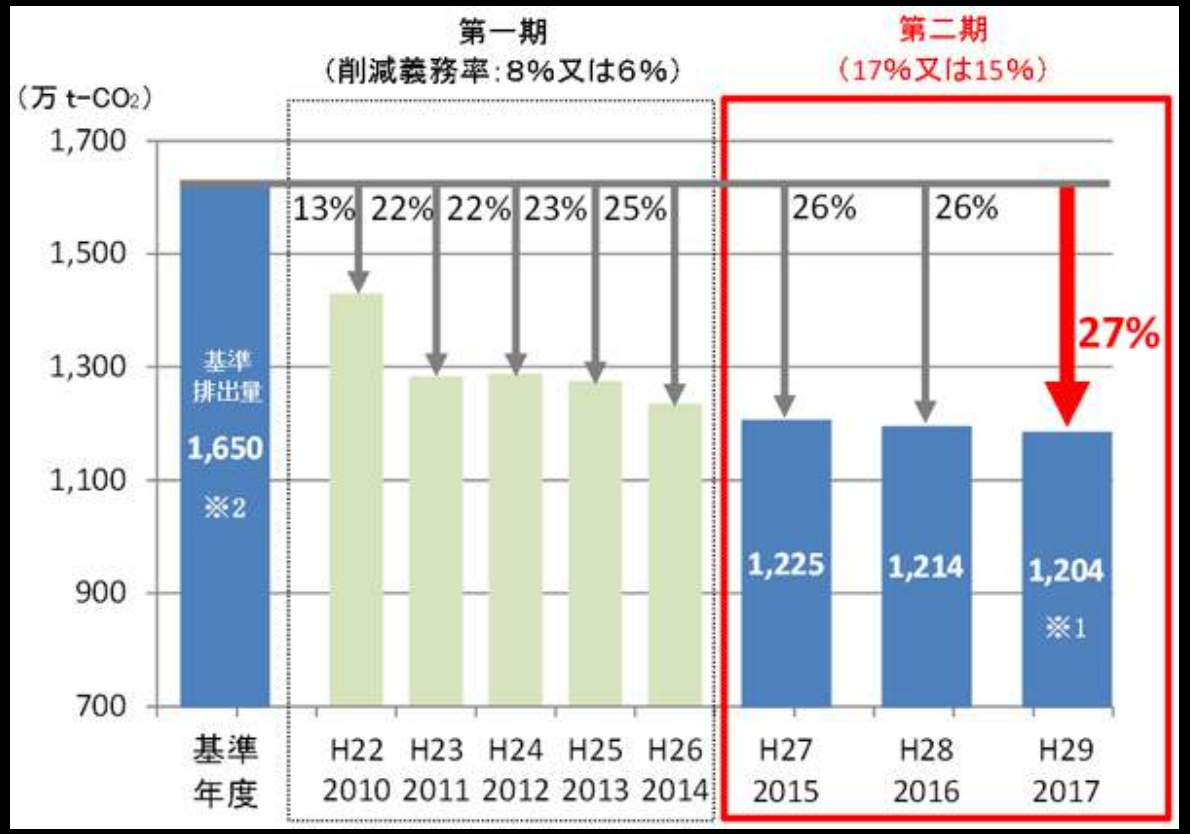

環境報告書等による温暖化対策に関する情報開示を**半数**以上の大学が行っておらず、気候関連情報のアカウンタビリティの低さが際立つ。

# 考察：大学の脱炭素化に向けたガバナンスが脆弱




温暖化対策にかかる**経費**や**人員の不足**が、対策が進まない主な原因であることから、大学経営において脱炭素化の優先順位の低さが現れている。

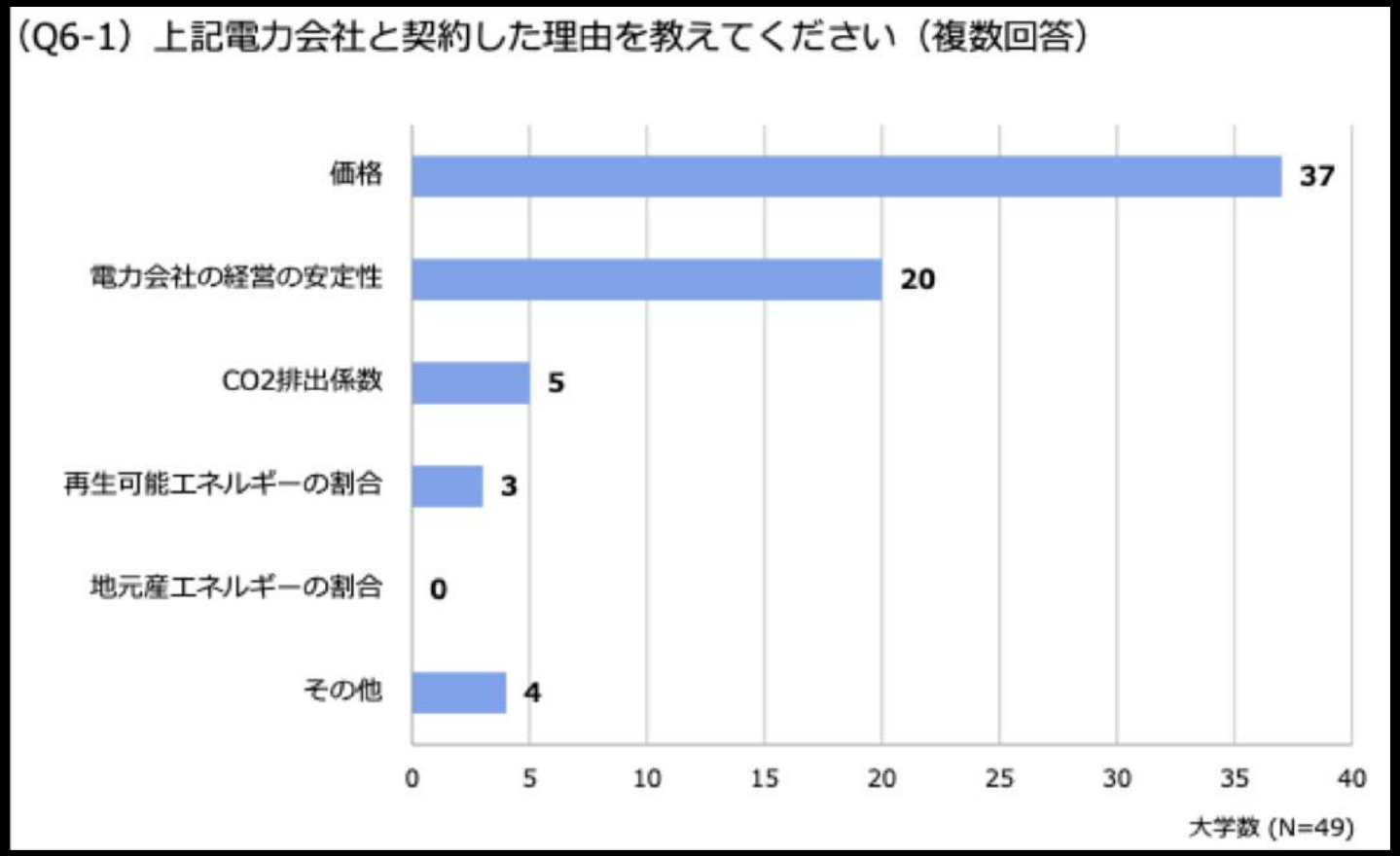
# 考察：行政による環境規制が不十分




出所：東京都HP

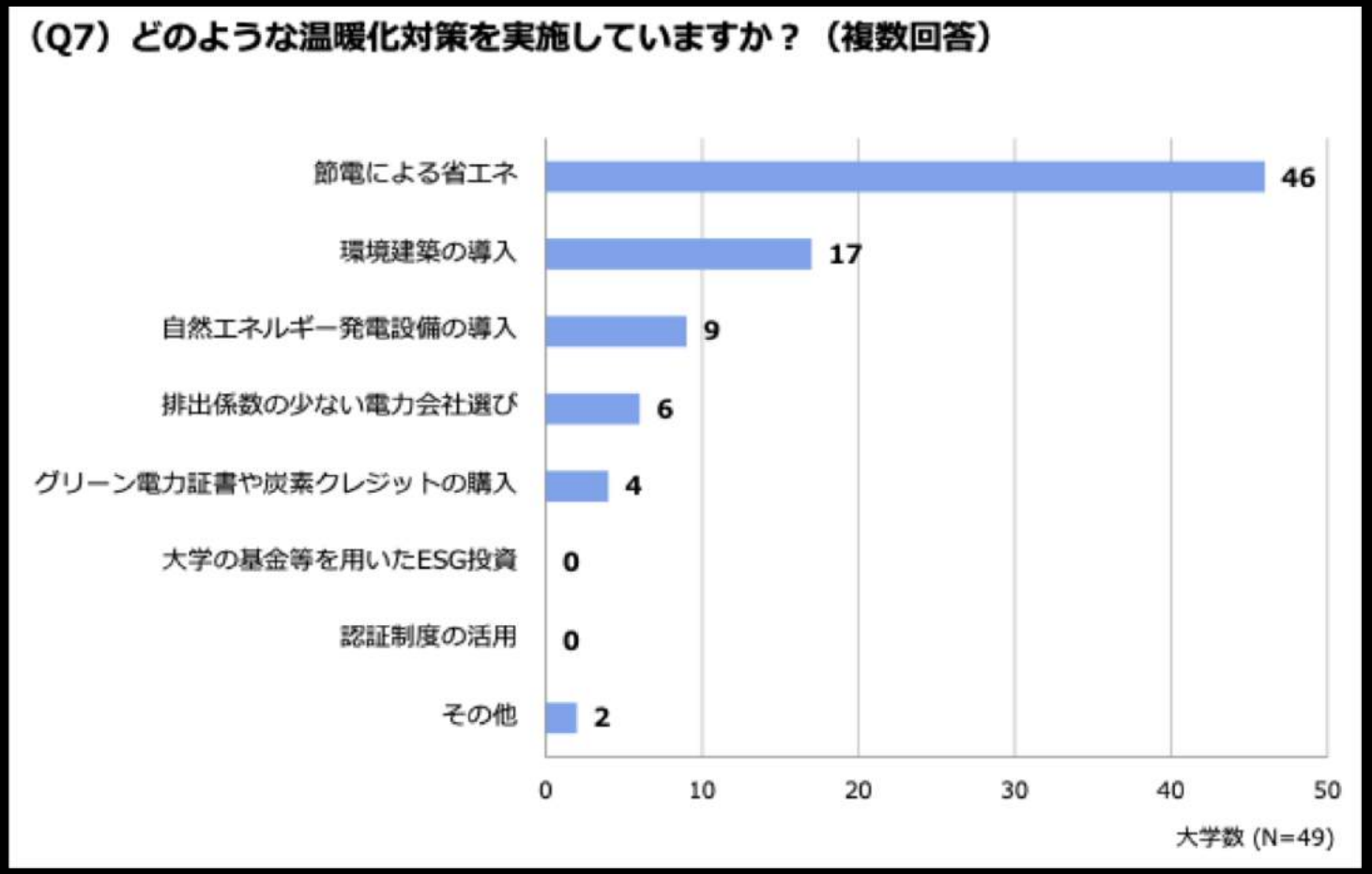
回答大学の多くが、省エネ法や**東京都環境確保条例**等の規制を遵守していることから、法・ 条例による温室効果ガス排出量規制や削減目標をさらに強化することで、大学の温暖化対策の底上げにつながると考えられる。

# 考察：電力調達に関する環境基準がない



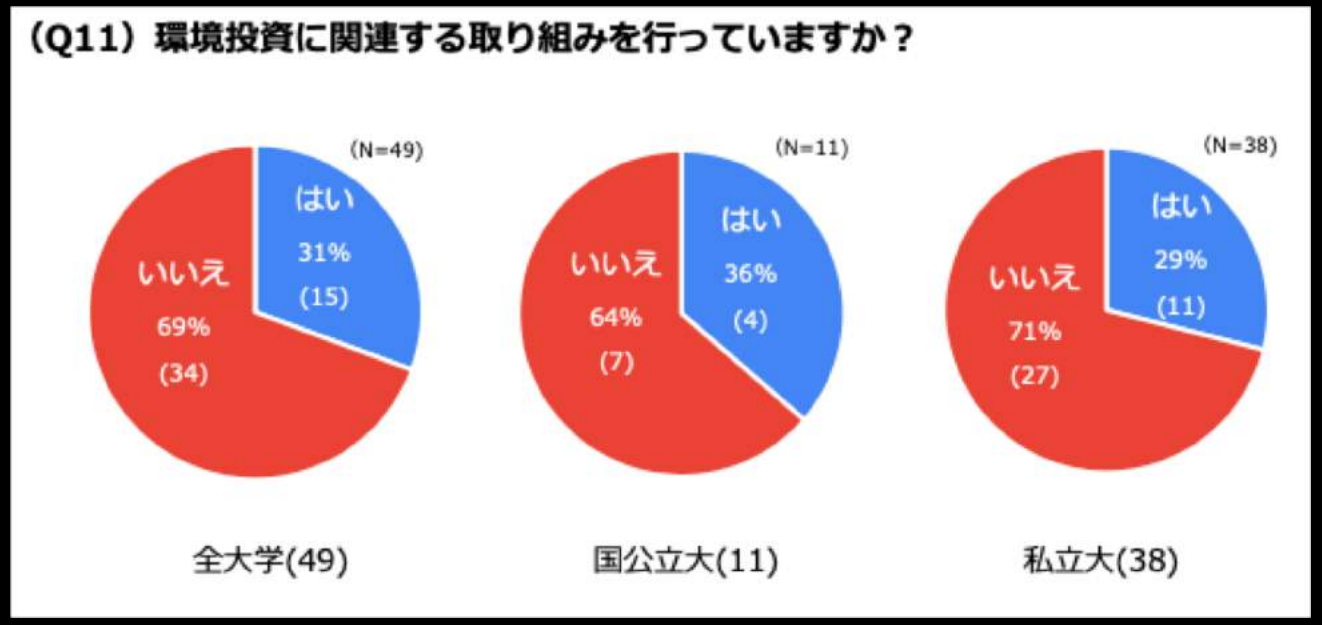

ほとんどの大学が**コスト優先**で、CO2削減などの観点で電力調達をしておらず、脱炭素の観点での調達基準の作成が必要である。

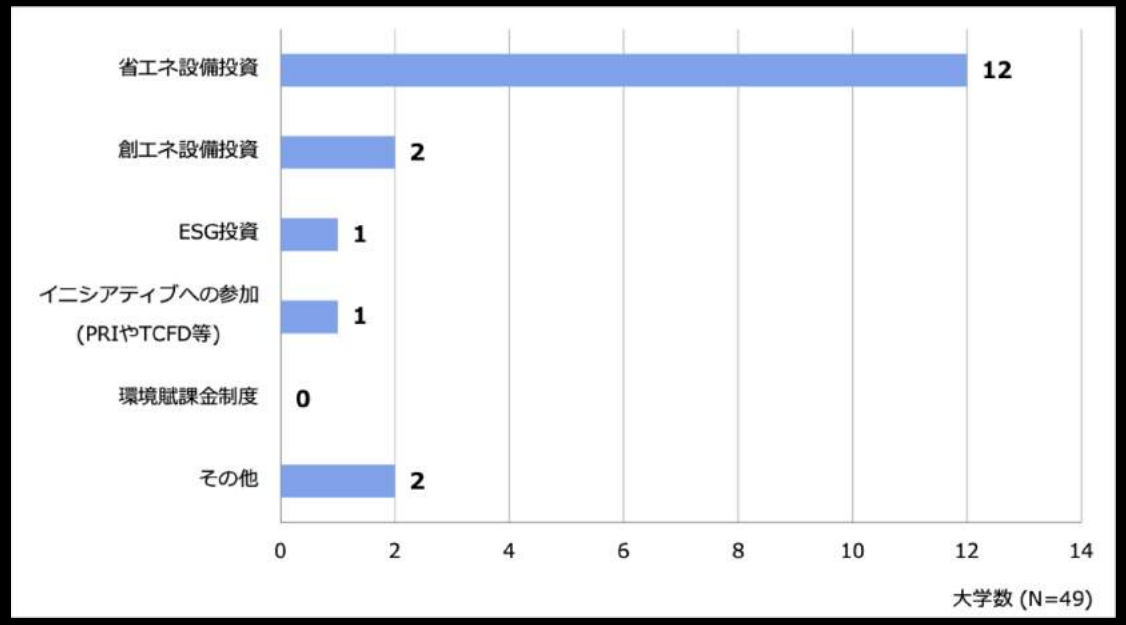
# 考察：電力調達に関する環境基準がない




回答大学による温暖化対策の殆どを省エネルギーが占めており、排出係数の低い電力会社への**切り替え**がなされていない。

# 考察：脱炭素化に向けた責任ある投資や資産運用がほとんどなされていない



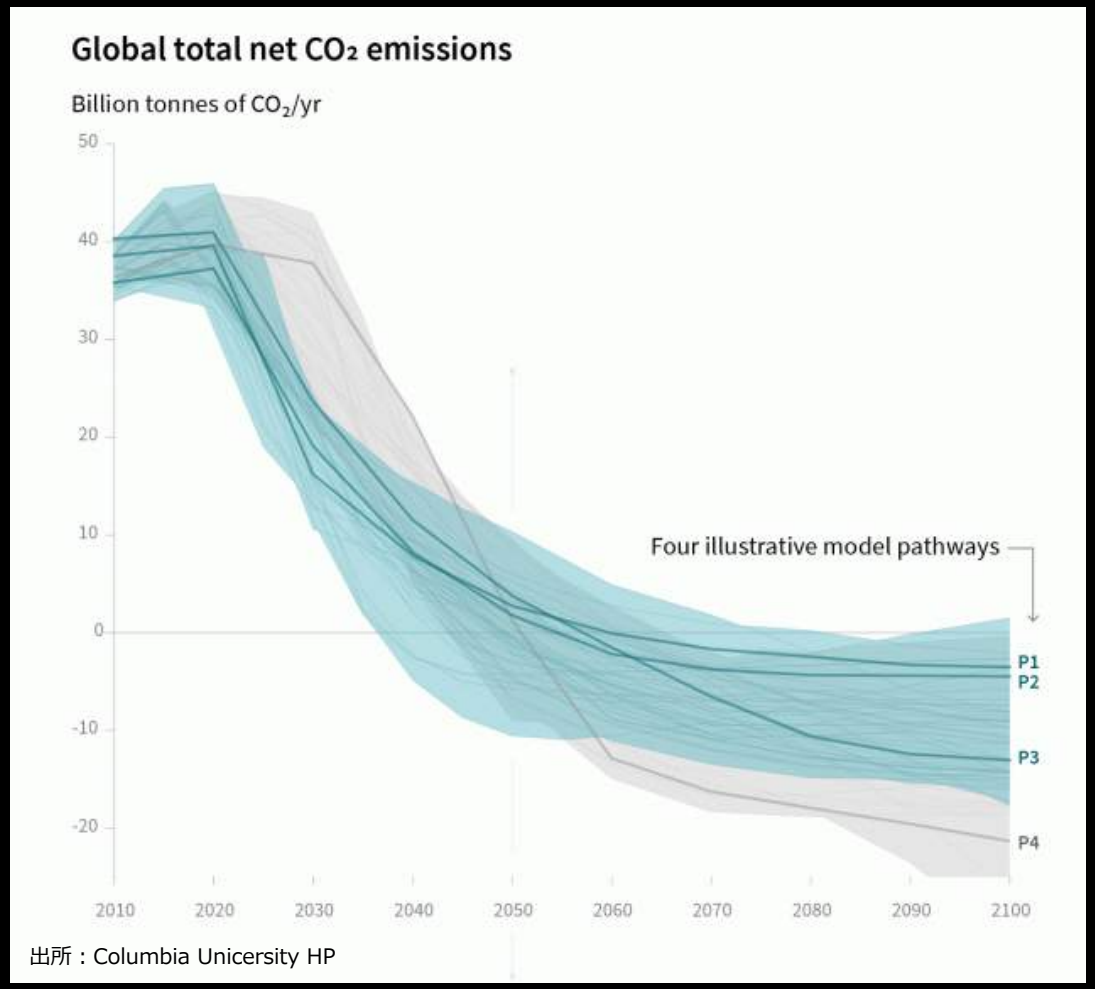




大学が温暖化対策を目的としたESG投資を実施することで、大学の新たな**資産運用**の形として、温暖化対策と教育・研究費の充実を両立し得ることを実証する機会となる。

# 提言：大学経営のガバナンスに脱炭素化を組み込み、温室効果ガス排出主体としての責任を果たすべきである

- 大学経営の幹として気候変動に取り組む上で**議論の場**の設定は基本であり、未だ設置していない大学は早急に設置を検討すべき
- 気候変動に関する委員会を運営する際に、大学経営の意思決定に深く関わる**理事や理事長レベル**の役職につくものが委員として参加すべきである。
- 大学の脱炭素化を進める上で、温暖化対策を主目的とした**予算の確保**や温暖化対策の専門家等の**人員の確保**が急務である。
- UNFCCC が実施している脱炭素化を促すキャンペーンである**Race to Zero**や日本主導のイニシアティブである Japan Climate Initiative 等への参加を始めとして、大学としての取り組みやビジョンを示すべき。
- **事業報告書**や環境報告書での温室効果ガス削減目標、省エネ目標、再エネ導入目標等、またそれらの達成状況等を情報公開する必要がある。

# 提言：日本政府及び東京都は、環境規制をIPCCが示す科学に基づいた目標とさせるべき




出所：Columbia Unicersity HP

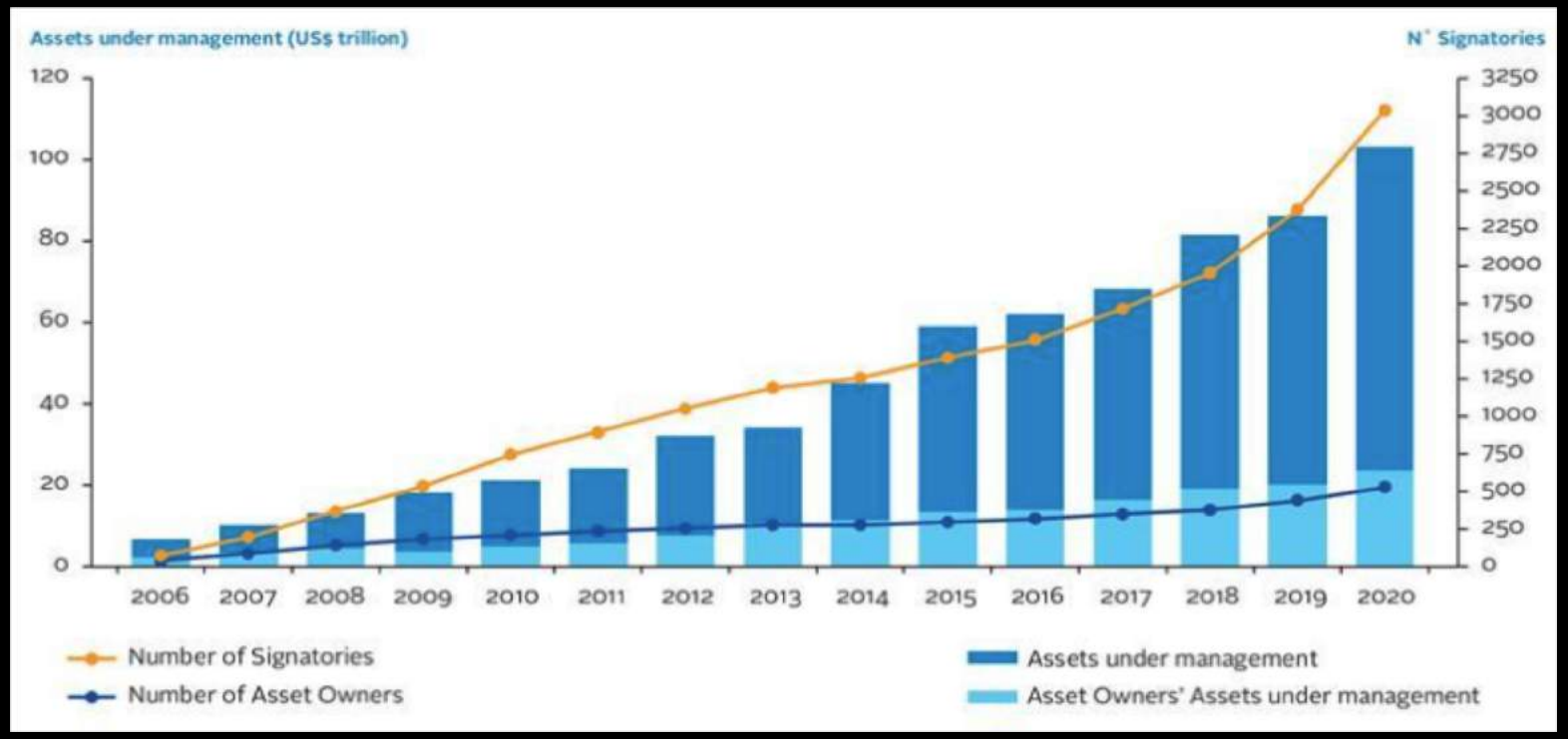
世界の平均気温の上昇を 1.5°C 未満に抑えるためには IPCC が示す通り 2030 年までに **約 45%**（2010年比）、 2050年までに**排出実質ゼロ**を実現する必要があり、省エネ法や東京都環境確保条例もそれに沿った目標に引き上げる必要がある。

# 提言：大学の電力調達においては、コストのみでなく脱炭素を重視した調達基準作りをすべき

出所：Edie.net

電力調達は短期的なコストで選ぶのではなく、**再生可能エネルギー**を重視する電力会社や地域の発電を重視する電力会社から調達するような調達基準を作成し、それに合致する電力会社と契約すべきである。

# 提言：資産運用にESGの観点を組み入れ、研究・教育費の増資と脱炭素化を両立すべき




出所：PRI HP

**PRI**(国連責任投資原則)に署名し、教育・研究機関でありまた資産の運用機関である大学の責任投資にかかる責任を対外的に示すことで、大学をはじめとした様々なステークホルダーによる責任投資を波及させていくべきである。

# Race to Zeroに参加して脱炭素化を促進させませんか？

UNFCCC（国連気候変動枠組み条約事務局）が今年6月に発表した国際キャンペーン「Race to Zero（ゼロへのレース）」は、世界中の企業や自治体、投資家、大学などの非政府アクターに、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すことを約束し、その達成に向けた行動をすぐに起こすことを呼びかけています。

# メディア掲載

朝日新聞デジタル > 連載 > ひと > 記事

## （ひと）塚本悠平さん　２９０大学に電話で温暖化対策を聞いた京大院生

有料会員記事

2021年2月3日 5時00分

シェア　ツイート list　ブックマーク 1　メール　印刷

塚本悠平さん

電話口での言葉は同じだ。「そちらの大学ではどんな 温暖化対策 してますか」。関西と東京の２９０の大学に電話をかけ続けた。「 スマホ はいつも熱かった」

きっかけは２０１８年夏。環境ＮＧＯ「気候ネットワーク」で インターン をしているとき、ぱらぱらと文献を読んでいると、大規模な大学では 温室効果ガス がた

出所：朝日新聞 2021/2/3

## 大学の温暖化対策、道半ば　温室ガス目標、半数持たず

3/21(日) 16:09 配信 1

KYODO

千葉県野田市にある千葉商科大の太陽光発電所を見学する学生ら（同大提供）

地球温暖化対策に関する環境団体の調査に回答した東京都内の大学のうち、ほぼ半数が温室効果ガス排出削減の目標や計画を策定していないことが21日までに分かった。関西圏の大学を対象にした調査でも同様の結果で、都市圏を中心に大学の対策が道半ばだと明らかになった。環境団体は「大学は温室ガス排出源の一つで次世代の教育も担う。率先して対策を進めてほしい」という。

京都大の大学院生らが中心になった組織「脱炭素投資研究会」などが、139校に昨年6～9月、アンケートを実施。そのうち49校から回答があり、23校（47％）が排出削減の目標や計画を「持っていない」と回答した。

出所：共同通信 2021/3/21